

<活動の様子>



6月2日 素鷲公民館
高齢者学級



7月12日 桑原公民館
高齢者学級

12月1日 北条夏目
四季花の会

振り込め詐欺や催眠商法
被害から高齢者を守ろう

県内の民間消費者団体 心理テストや寸劇で啓発

だまされやすさ心理チェック
おてはまる項目にチェックを付けてください

- 自分の名前や住所を聞き出し、お話を聞かせる
- 相手に悪いので人の話を一度聞き聞かせる
- 売られた商品のいい人がトランプに乗るのを信じてみる
- 知らない人から「高年者」を勧誘され、お話を聞かせる
- 知らない人や関係のある人の誘うことばかりで悩んでしまう
- 入心動かされるお話を聞かせる
- 連絡を断った後、何度も電話がかかってくる
- 連絡、身に危険を感じる人があまりいない
- しっかりお話を聞かせる

平成22年7月21日付け愛媛新聞に紹介されました。

事業名 楽しく学ぶ「悪質商法未然防止」の出前講座

<目的> 利殖投資勧誘や、マルチ商法などの悪質商法被害を防止するため、被害者として狙われやすい高齢者層を重点的に、県都全域で悪質商法への啓発活動を実施し、消費者被害未然防止活動を積極的に展開する。

<事業内容>

1. 松山市全域に啓発出前講座を14箇所(365人参加)で実施。
2. 高齢者サロン、老人クラブの集い等で、熱心に聴いて頂き、切実な体験談も話して頂きました。同時に地域の世話役の方々との継続したコミュニケーション・チャンネルを維持できました。
3. 寸劇・コント・紙芝居・替え歌・クイズなどを折り込んだ楽しい講座の実施。
 - ・原則として講師1+スタッフ2+受講者参加型の構成。
 - ・未然防止対策として、一人で考えるのではなく相談することの大切さについて、事例を紹介しながら行政などの公的相談機関の周知と、動機付けを啓発しました。
4. 講師及びスタッフは、消費生活アドバイザーまたは消費生活相談員の有資格者により実施。
5. 「悪質商法お断りキット」の配布
 - ・玄関貼付ステッカー・電話番号掲出カードなど
6. アンケート調査(被害情報収集の場合公的機関へ連絡)
 - ・講座終了時にいただいたアンケートでも、「今後悪質商法に出会ったときには上手に対応できる(91.3%)」「内容を地域の知り合いの人に知らせたい(90.3%)」等と高い評価をいただきました。

<市民の参画や他団体との連携>

1. 松山市消費生活相談窓口の支援・協力。
2. 愛媛県中予地方局見守りネットワーク団体員として市内の加盟団体と連帯。
3. 地域でお年寄りや障害者の支援活動がされている老人会、民生委員の方々に開催協力。
 - ・『民生委員』『ヘルパー』『福祉関係職員』『福祉・高齢者関係協力員』など、見守る立場の方が合計48人(18.1%)聞いて下さいました。団体役員や町内役員の方も加えると83人(31.3%)。
4. 開催後も相互に情報交換を実施する。

<市民に対するPR>

1. 市民活動推進事業として、エリアの公的機関窓口等でのチラシ周知を図る
2. 高齢者サロン等運営されている民生委員の方々に個別周知
3. 当協会ホームページによる周知
4. 講座開催時に口コミによる開催案内の周知

ゆとりあママくらぶ

<活動の様子>



事業名 ゆとりあ花くらぶ

<目的>

子育て中の親子、母親を対象に花に関する基本的な知識を身につけてもらう機会を設ける。

参加した親子や母親同士の交流を通し、育児情報の交換や花とのふれあいを体験していただくことにより、子供にあてる花育を学びます。

また、地域のアドバイザーの養成を目的とし、花に関する知識と花の基本的な取り扱いの技術を身につける。そして、養成したアドバイザーと共に地域の福祉施設・児童施設などに出張講座をひらき、花を通しての地域づくり、町づくりに貢献することを目的とする。

福祉施設 → 花に触れることにより手先のリハビリや精神的癒しの効果がきたいできる。

児童施設 → 幼少期からの花育教育。植物と触れる機会を与えることを目的とする。

<事業内容と参加者や参加団体からの感想>

親子花くらぶ

子育て中の親子、母親を対象に花に関する基本的な知識を身につけてもらう機会を設けました。

参加した親子や母親同士の交流を通し、育児情報の交換や花とのふれあいを体験していただき、子供とともに花育を学びました。また、フラワーボランティアの養成をし、花に関する知識と花の基本的な取り扱いの技術を身につけるため、アレンジメントの製作をしていました。

感想 → 子連れで花育を学べてよかった。また、子供も一緒に花を楽しみ身近に感じた。

持ち帰ってからも、子供と花の変化を日々観察し親子の新しい会話ができる。4

福祉施設への出張講座

福祉施設に出張し、フラワーボランティアさんと一緒にフラワーアレンジメントの講座を行いました。

感想 → ・花に触れることにより手先のリハビリになった。いつもは、ハサミを使用されていない利用者が上手にハサミを使用し、いきいきとされている姿に職員も嬉しくなりました。

精神的癒しの効果あった。

・心が明るくなった。・花の香りや美しさに触れると自然と笑顔がこぼれ、豊かな時間でした。

・お花には癒しと、人間関係をスムーズにしてくれるものがありました。

児童施設への花育講座

児童クラブに出張し、フラワーボランティアさんと一緒に花育を教えました。子供達にも、フラワーアレンジメントを作ってもらいました

感想 → ・初めての経験でしたが、子供達の集中力に保育者が驚かされました。また、日頃は教室内で、騒いだり走り回ったりする子供も、落ち着いた雰囲気の中で、座って製作ができたことに驚きました。

・持ち帰ることができることには、子供達とも『きれいね。』と共感し、子供達も保護者に見せるのを楽しみにしていました。

・子供達も独自の感性で取り組み、思い思いの個性的な作品ができました。

・終わってから、一人一人の子供達がお手紙を書いてくれ、ボランティアのほうも感動をいただきました。

<市民の参画や他団体との連携> 各支所や公民館など公共施設にチラシの設置・配布。愛媛新聞にて広報。

<市民に対するPR> 私たちの団体は、子育てや家事の合間の少しの時間で町づくり活動をしています。 これからも、ママ

でもできる町づくりを広げて行きたいと思っています。

ましまろプロジェクト

連絡先：住所 790-0002 愛媛県松山市二番町 1-12-2
代表：露口武志 Tel:089-931-9111

<活動の様子>



国際デザイン・アート専門学校
グラフィックデザイン科の学生が制作しています。



(b)



(a)

(a)絵本のフリーペーパーましまろ 8号

(b)絵本のフリーペーパーましまろ 9号



(d)



(c)

(c)絵本のフリーペーパーましまろ 9.5号

(d)絵本のフリーペーパーましまろ 10号

事業名 絵本のフリーペーパー「ましまろ」の発行

<目的>

「絵本のフリーペーパーましまろ」は子供たちに喜んでもらえる絵本づくりをテーマに、学生たちが自分たちにしかできない地域貢献を目指して誕生しました。フリーペーパー1冊1冊が親子の絆をより深めるコミュニケーションツールになるように願いを込めて制作しています。

<事業内容>

- ・「絵本のフリーペーパーましまろ」の発刊（年間4回）
これまで3年間で12冊、述べ73,000冊を発行。
- ・ましまろホームページ、ブログとしての情報発信
ましまろプロジェクトのホームページ <http://msmr2007.web.fc2.com/index.html>
ましまろプロジェクトのブログ <http://ameblo.jp/msmr-project/>
- ・お子さん対象の「お絵かきイベント」の実施

<市民の参画や他団体との連携>

今年度の特徴として、企業・団体と一緒に作る「コラボ絵本」の掲載に力を入れました。お陰様であいテレビ平繁かなえアナウンサー、伊予鉄道株式会社様、boulangerie IPP0様、しげのぶ清愛園様に協力頂き、素晴らしい絵本が完成しました。また、愛媛県から将来、若い絵本作家の輩出を目的として「高校生絵本グランプリ 2010」を開催し、愛媛県立内子高校の学生さんの作品が見事グランプリに輝きました。本作品は、絵本のフリーペーパーましまろ10号に掲載しています。

<市民に対するPR>

絵本は、子供たちの好奇心と想像力をふくらませ豊かな感性を育みます。より多くの親子に絵本の魅力を伝え、親子のコミュニケーションツールとして定着するように継続してフリーペーパーの制作に努めたいと思います。是非、子育て中の親子の皆さんには手に取って読んで頂けたらと思います。

＜ 活 動 の 様 子 ＞



事業名 ブラインドサッカー普及・推進事業

＜目的＞

愛媛の障害者がサッカーを通して、互いの協調性を高め友好と新睦をより一層深めると共に健常者との交流を進め、その中で学んだ事を自立と社会参加の糧とする事を体験する事を目的とする。

＜事業内容＞

案内・広報チラシ及び機関紙を発行 毎月の定期的な練習会や不定期な練習会を開催
全国の障害者スポーツの実態調査・研修会参加活動 地元プロチームや企業とのタイアップ
地元企業・団体・自治体・プロチームの参加協力をいただいているチャリティイベントの開催
他県のブラインドサッカーチーム・後援プロチームを招いての交流試合

＜市民の参画や他団体との連携＞

ブラインドサッカーの西日本大会・全国大会への参戦
地元企業・団体・自治体の参加協力をいただいているチャリティイベントの開催の固定化。
他県のブラインドサッカーチームを招いての交流試合による地域経済の活性化

＜市民に対するPR＞

障害者の積極的な社会参加 健常者の障害者への理解の向上
地元開催のスポーツへの観戦者数の増加